

# 五輪ボランティアやってみたいな

2020年の東京五輪・パラリンピックに向け、おもてなしの心を学ぼうと、石巻市貞山小（児童191人）は7日、元日本航空客室乗務員で、筑波大客員教授の江上いずみさんを招いた「おもてなし講座」を開いた。

アスリートらと交流し、努力の大切さなどを学ぶ貞山小の「オリンピック・パラリンピック教育」の一環として実施。6年生35人が参加した。

江上さんは、客室乗務員時代の接客エピソードを紹介しながら、

貞山小で講座 6年生参加

## おもてなしの心を学ぶ

「言われたことをするだけではただの対応に終わってしまう。相手の気持ちになって行動することが心遣いにつながる」と呼び掛けた。

好感が持てる服装や言葉遣い、お辞儀だけでなく、握手の仕方や入室を確認する際のノックの回数など、国際的なマナーに関する説明もあった。

川村淑乃さん（11）は「日常生活の中で思いやりの気持ちが大切だと分かった。五輪のボランティアはチャンスがあればやってみたいな」と話していた。



おもてなしについて説明する江上さん